

うつくしま水田農業ビジョン通信 Vol. 44 平成20年2月25日

県内第一号の「米の生産調整目標達成のための合意書の締結式」が開催された！！！

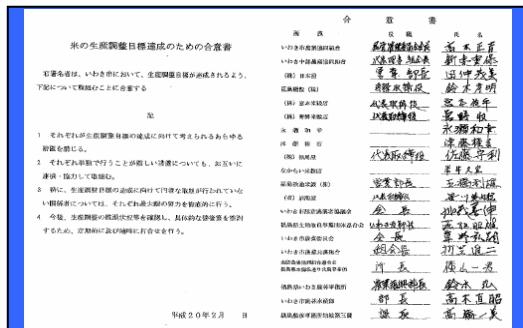
いわき市水田農業推進協議会



平成20年2月4日にいわき市水田農業推進協議会はJAおよび関係農業団体、集荷業者、行政等20名による「米の生産調整目標達成のための合意書の締結式」を県内初めて行いました。米価の安定を図るため、来年度以降の生産調整の実施をする。米以外の作物の生産振興により、水田農業の活性化を目指すことを趣旨とした合意事項を確認しました。

合意事項

1. それぞれが生産調整目標の達成に向けて考えられるあらゆる措置を講じる。
2. それぞれ単独で行うことが難しい措置についても、お互いに連携・協力して取り組む。
3. 特に、生産調整目標の達成に向けて円滑な取組みが行われていない関係者については、それぞれ最大限の努力を徹底的に行う。
4. 今後、生産調整の推進状況等を確認し、具体的な善後策を検討するため、定期的に及び随時に打合せを行う。



米の生産調整目標達成に向け、県域での合意書締結

9団体による
合意書の署名

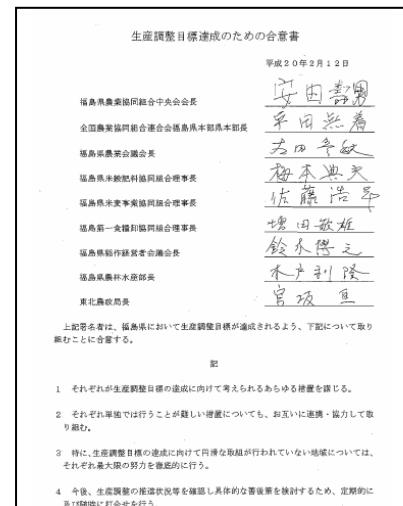


20年産米の生産調整目標達成に向けて、福島県内の関係団体や行政による合意書の締結式が2月12日、福島市内で開かれました。県域の生産・集荷団体と行政が相互に連携することで、目標達成に拍車が掛かる、県域での合意書締結は東北では初めてである。

県内の生産者団体、集荷団体、行政など9団体が、互いに連携・協力し、円滑な取り組みが行われていない地域に対し、最大限の努力を徹底的に行う、具体的な善後策を検討するため打ち合わせを隨時開く、などを確認した合意書に、代表者9人が署名。代表してJA福島中央会の安田壽男会長と県農林水産部の木戸利隆部長が、関係機関が一体となって、全力をあげて生産調整の目標達成に取り組む、決意を表明された。

合意書に署名した団体は

J A福島中央会、JA全農福島、県農業会議、県米穀肥料協同組合、県米麦事業協同組合、福島第一食糧卸協同組合、県稻作經營者会議、県、東北農政局の9者。



JAグループ福島県域営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

(福島市飯坂町平野字三枚長1-1 Tel 024-554-3072 Fax 024-554-6022)

http://www.fs-suishin.jp/04_doc/04_vision.html

“四辻新田集落営農組合農用地利用改善団体が誕生／集落営農本格始動へ！！

J Aあぶくま石川
扱い手課長
曲山 永幸



J Aあぶくま石川管内の四辻新田集落営農組合が、福島県玉川村に申請していた農用地利用規程の認定交付式が23日、同村役場で開かれました。石森春男村長から大和田宏組合長に認定証が手渡され、農用地利用改善団体が誕生しました。

農用地利用改善団体の指定を受け、様々な行政支援の対象団体となることで、集落営農組織としての活動を、本格的に始動する方針である。同集落営農組合の組合員数は41人で、加入率95%と、集落内の団結も強い。

交付式に出席した組合長や行政、JA職員など10人は、活力ある地域・集落づくりに向け、意見を交換しました。より一層の連携の強化を確認しました。

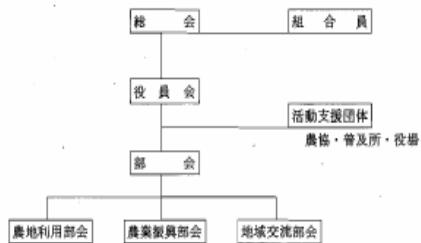
同組合は2007年4月15日に発足し、事業計画に基づき、特産品「サルナシ」の栽培や集落営農の先進地視察、収穫祭などの地域交流会、自然探訪マップの作成などに取り組み、活力ある地域・集落づくりを進めてきた。

写真=認定交付を受ける大和田組合長(右)



四辻新田集落営農組合

組合員	→ 地域における加入者
総会	→ 組合の運営に関すること
役員会	→ 組合の運営及び各部会との連絡調整に関するこ
農地利用部会	→ 農用地利用規程に関すること 農作物受託栽培に関すること 農業機械の組織的整備利用に関するこ
農業振興部会	→ 新規作物等の導入推進に関するこ 農作物生産技術対策に関するこ 遊休農地対策に関するこ
地域交流部会	→ 地域環境整備促進に関するこ 地域活動の促進及び伝統行事等の継承に関するこ グリーンツーリズムの企画運営に関するこ
活動支援団体	→ 農協・普及所・役場など



今後の目指すべき方向

- 地形や規模により集約受託作業が難しいので地域をグループに別けた作業の受委託ができる仕組み作りをすすめたい。
- 新たな投資は難しいことから、「農地・機械・施設」についての管理・運営方式を整備する。
- 豊富な景観や資源を活用した「さるなし栽培」や「リンドウ栽培」の定着とグリーンツーリズム推進を行うシステムを活用した組織体制の整備をおこなう。